

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

School Motto (スクール モットー) 「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、社会の変化に臨機応変に対応し、主体的に学び、自らの可能性を拡げることができる生徒を育成し、地域から信頼される学校

- (1) 学びに向かう環境づくりの充実を図り、基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。
- (2) 授業・行事・部活動を通し、自ら考え、自ら計画し行動できる主体性及び継続力をより一層高める。
- (3) 自己を大切に、他者を尊重する心、地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

2 中期的目標

1 学びに向かう環境づくりの充実を図り、基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。

[「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進]

(1) 新学習指導要領をふまえ、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」を確実に実施する。

ア 公開授業、研究授業、校内研修、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む。

イ 指導教諭を中心に、観点別学習状況の評価の進捗状況を共有し、教科横断的な研修会を行い、評価、改善を進める。

ウ 様々な課題を抱える生徒の支援に向けて、教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラー等の専門人材を活用した校内の支援体制の充実を図る。

(2) リーディング GIGA ハイスクール研究校として、1人1台の端末をより効果的に活用し、生徒が主体的に深く学ぶ授業改善への取組みを推進する。

※ 「ICTを活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取組みについて推進し、令和7年度に、それぞれの生徒肯定率について、90%、75%をめざす。

(R2 : 78%・66%、R3 : 88%・72%、R4 : 84%・74%)

2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実

学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みをホームルーム活動、総合的な探究の時間等を通じて教育活動全体で行い、自主性・自立性を育成するキャリア教育の充実をめざす。

※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度(生き方や進路を考える教育)」の生徒の肯定率を、令和7年度に向けて、毎年、92%を超えるようめざす。(R2 : 89%、R3 : 92%、R4 : 97%)

(1) 生徒の希望進路実現への取組み

ア 生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。

(同窓生、地域の方等を講師として職業意識を高める進路講演会を行う。スケジュールの早期提供、模試の事前事後指導。面接練習の強化。志望理由書作成の添削など)

※ 年度当初の4年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと、令和7年度に向けて、生徒の希望進路実現率を4年制大学合格率95%、就職斡旋100%を維持し続ける。(R2 : 96.8%、R3 : 91.2%、R4 : 87.1%) ← 就職斡旋率は3年間100%

(2) 国際理解教育と英語教育の推進

ア 平成26年度より、他の府立高校と合同での国際交流研修を継続してきたが、コロナ禍のため令和2年度から中断している。今後、内容の検討を含め、再開に向けた準備を進める。

イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。

ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、英検の受験を奨励し、令和7年度まで、受験者数30人以上を維持し、合格のための講習を行う。

(R2 : 15人、R3 : 48人、R4 : 23人)

3 自ら考え、自ら計画し行動できる主体性及び継続力をより一層高める。

(1) 部活動の活性化

クラブ加入の促進並びに生徒の学校生活の質の向上に取り組む。

ア 1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。

※ 1年生のクラブ加入率・退部率を令和7年度に、それぞれ70%以上、10%以下をめざし、加入率増加、退部率減少に取り組む。(R2 : 77.4%・3.5%、R3 : 65.9%・12.8%、R4 : 60.6%・13.1%)

イ 部活動における練習の効率化を通じて、生徒の時間を計画的に使う力の向上を図る。

(2) “規範意識＝基本的生活習慣”の醸成

ア クラブ代表者会議や部活動集会をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。

イ クラブ員を中心に、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。

※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率をそれぞれ、令和7年度に向けて、80%、85%以上を維持する。

(R2 : 85%・87%、R3 : 86%・88%、R4 : 84%・81%)

※ 生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高める。(・遅刻数2000回以下を目標とする。)

(R2 : 1983回、R3 : 2207回、R4 : 2417回)

ウ 校舎内外や教室の清掃・美化を徹底するとともに、校内外のクリーンキャンペーンの実施、授業環境のユニバーサルデザイン化を進め、学習が深められる環境を整える。

※ 「清掃の状況」肯定率を生徒教員ともに令和7年度に向けて、それぞれ増加させる。(R2 : 72%・46%、R3 : 74%・47%、R4 : 71%・57%)

エ 校内での挨拶の励行のため「こころの再生」にかかる挨拶運動などを行う。

(3) 人権教育と教育相談機能のさらなる充実

ア 人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。

※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率を、令和7年度に向けて、90%を維持する。(R2 : 93%、R3 : 95%、R4 : 95%)

イ 教育相談委員会や特別支援委員会の機能とそれが行う研修をともに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒への合理的配慮を行い、また、自立を支援できる体制をより一層確立する。

カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒支援について一層の徹底を図り学校全体での情報共有を行う。

SCと連携するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に積極的に周知し、相談室の利用を促進する。

※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」、「先生は生徒がいじめや困っていることに真剣に対応」「担任以外にも相談室等で気軽に先生やSCに相談することができる」の生徒の肯定率をいずれも、令和7年度に85%以上をめざす。(R2 : 76%・83%・84%、R3 : 77%・88%・84%、R4 : 74%・91%・86%)

4 求められる魅力ある学校づくり[広報活動と地域連携の充実]

ア 授業、クラブ、生徒会活動で地域と積極的に交流を深めるなど、本校の教育活動についての理解を深めてもらう機会を増やすとともに、学区撤廃による影響を的確に把握しながら、学校説明会・中学校訪問など効果的な広報活動の充実を図る。

イ ホームページ、メールマガジン、配付物等を通じて保護者、生徒、中学生に大冠高校の情報と魅力をより効果的かつ継続的に発信し、理解を深める。

5 学校の全体で取り組む教員集団の確立[教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み]

- ア 防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。
- イ 授業アンケート結果を教科会議において分析、改善策の検討等授業力向上を図る。
- ウ 新規採用教員・経験年数の少ない教員に対して、定期的に校内研修(管理職・首席・指導教諭を中心として)を行いOJTにつなげ、教員の資質向上を図る。
- エ 全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進するとともに、校務運営の効率化を積極的に進め、勤務時間管理及び教職員の健康保持、増進に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○「学校へ行くのが楽しい。」「自分の学級は楽しい。」等の設問について、肯定的評価が、生徒は85%、保護者は80%を超えている。</p> <p>また、いじめへの対応、カウンセリング、キャリア教育、人権教育、学校行事、部活動等に関する設問についても、同じく生徒は85%、保護者は80%を超えている。本校が、<u>多くの生徒にとって、安全・安心な「居場所」となっており、かつ、本校の教育活動のについても評価されている</u>と考えられる。</p> <p>○<u>授業、学習、ICTの活用、評価等の設問について、肯定的評価が、生徒は85%、保護者は80%を超えている。</u>生徒については、90%を超えている項目も多い。本校の学習指導、評価について納得してもらえていると考える。また、この数年間の、新教育課程への移行、観点別評価の導入、ICTの活用推進等の教員の研修、取り組みの成果も現れていると考えられる。</p> <p>○課題としては、生徒と保護者で、類似設問にもかかわらず、<u>肯定的評価に差がある項目がある。</u>生徒には肯定的に評価されている教育活動が、保護者には伝わっていない可能性があると考えられる。<u>より一層の情報発信、保護者との連携の充実に努めなければならない。</u></p> <p>○教職員の教育活動の評価、計画の見直し、授業の改善等の設問については、肯定的評価が向上している。一方で、<u>教員間で教科を超えて話し合っている等の設問は、肯定的評価が微減している。</u>この数年間に重点的に取り組んだ新教育課程への移行、観点別評価の導入、ICTの活用推進等が、検討の段階から実践と見直しの段階に進んだものとする。</p> <p>○<u>教職員のカウンセリングマインド、いじめ対応、ハラスメント防止、家庭や外部機関との連携等の生徒指導に関する設問、ICTの活用や情報モラル向上に関する設問の肯定的評価が向上している。</u>令和2年度から始まった新型コロナウイルス感染症に対する対応等を経て、生徒指導、ICTの活用が向上していると、教職員の回答からも伺える。</p>	<p>第1回学校運営協議会(令和5年7月6日)</p> <p>・スクール・ポリシー(案)の策定について ⇒ 承認</p> <p>[学校への提言]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しゃべり場による研修で、ベターな魅力ある授業を模索できている。 ●ツールをうまく活用している中で、使うことが目的にならないように。 ●学級崩壊は、高校ではあまり聞かない。先生方のフォロー体制が良いからなのだろう。 ●人と人との関係が大切で、先生は支える存在。生徒がそのとき気づかなくてもある時に気づけば良いので、ダメな言動には、「アカン」と言ってほしい。 ●南アフリカとのWeb交流は、ぜひ広く発信してほしい。 ●学校全体が風通しよく、協力して、しゃべり場等でブラッシュアップしてほしい。 <p>第2回学校運営協議会(令和5年11月24日)</p> <p>[授業参観の感想]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アクティブラーニングが進んでおり、クラスの雰囲気が良い。 ●先生も生徒も個性を出しながら、授業内容をブラッシュアップしている。 ●電子黒板、1人1端末の活用で、さらにベターな状況を作り上げている。 <p>[学校への提言]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高校でも、小中学校と同様に、人間関係トレーニングが有効なのかもしれない。 ●ICTのツールをどう生かすかがポイントになっている。 ●キャリア教育を通して、社会にどうつながっていくか、きめ細かい指導が必要である。 ●オーストラリア語学研修経験をブラッシュアップし、周りに影響を与えればさらに良くなる。 ●行事のがんばりが、学習活動に繋がっており、生徒達はがんばっている。いい形を次回の行事に続けてもらいたい。 <p>第3回学校運営協議会(令和6年2月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教員の働き方改革が問題となっている。とりわけ部活動付添が勤務時間外の在校時間が多くなっている要因と聞く。すべての部活動ではないが、部活動指導員制度を活用し、また、長期休業中、複数の文科系クラブ付添を日直当番の教員が付添する等の工夫していると説明があったが、学校応援団として、卒業生・大学生が教えるなどの制度ができれば、と思われる。 ●進路探究を深める計画は、アフターコロナで元に戻った今こそチャンスである。 ●人権への関心の高さの要因をどのように捉えているか。 <ul style="list-style-type: none"> A：本校の年1回の全学年人権行事の取り組みの成果が大きいと思われる。また、ジェンダーやSNSトラブルに関してグループワークしたことも影響していると認識している。 ●学習時間の増加は良い傾向であるが、アクセルとブレーキが大切。教員が評価疲れにならないように。 <ul style="list-style-type: none"> A：課題が増え、各教科がテスト前に集中するため、課題の総量と時期を調整し、満遍なく学習できるようにしたい。 ●リーディングGIGAも含め、効果的な取り組みをより発信すべき。地域に繰り出しての、清掃活動等、頑張っている姿を褒め合い、それをさらに広げていってほしい。 ●グローバル(友達、母校、地域など、周りを大事に)をキーワードソフトに取り組みを進めてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 「魅力ある授業づくり」の推進 「確かな学力」の育成と	<p>(1) 新学習指導要領をふまえた、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」の確実な実施。</p> <p>(2) リーディングGIGA ハイスクール研究校として、1人1台の端末をより効果的に活用し、生徒が主体的に深く学ぶ授業改善への取組みの推進。</p>	<p>ア・若手教員の育成や教員間の共通理解を目的とした「しゃべり場」や公開授業を有効活用し、学校全体で授業改善を推進</p> <p>イ・授業アンケート自己及び教科分析シートを各教員が振り返るとともに、観点別評価の進捗状況や授業見学等を通して、生徒に身に付けた力を共有する。</p> <p>ウ・様々な課題を抱える生徒が増えているなか、教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラー等の専門人材を活用した相談体制の充実を図る。</p> <p>・電子黒板機能付きプロジェクタを積極的に活用し、1人1台端末を最大限有効活用した生徒の主体的に深く学ぶ授業改善への取組みを学校全体で推進する。</p>	<p>ア・校内研修の毎学期実施3回以上〔4回〕</p> <p>イ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」85%以上〔84%〕</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における「担任以外にも相談できる」の肯定率86%以上〔86%〕</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「授業へのICT活用の機会」の肯定率90%以上〔84%〕</p>	<p>ア 公開授業・研究授業の研究協議も含め、「しゃべり場」を各学期に1回開催した。ICT機器の活用事例や授業展開の工夫等の情報を共有し理解を深めた。校内研修は3回実施した。(◎)</p> <p>イ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」は、89.6%で、昨年より向上した。単元目標の提示や説明の工夫、発表課題の設定等、主体的な学習活動に繋がる授業改善に取り組む。(◎)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における「担任以外にも相談できる」の肯定率は、86.9%であった。自己肯定感が高くなく、様々な活動を通じて悩み抱える生徒が少なくない。引続き、関係機関との連携を含む、相談体制の充実を図る。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)における「授業へのICT活用の機会」の肯定率は、91.3%と、昨年以上に向上した。引続き、電子黒板による教材提示、課題の送受信等、教職員で事例を共有しつつ、授業改善を推進する。(◎)</p>
2 夢と志を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	<p>(1) 生徒の希望進路実現への取組み</p> <p>(2) 国際理解教育と英語教育の推進</p>	<p>ア・生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で連携し、充実を図る。</p> <p>・進路指導部と学年が協同し、外部関係団体等の協力のもと、1年次より3年間をとおしての計画的な進路講習、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>ア・コロナ禍のため、この3年間実施できていない府立校合同オーストラリア国際交流研修について、内容の変更を含め、再開に向けた準備を進める。さらに、青年海外協力隊として、南アフリカ共和国に滞在している本校教諭との交流を図る。</p> <p>イ・英検の受験を奨励し、必要な生徒には合格のための補講を行う。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来や進路について考える機会」の肯定率97%以上〔97%〕</p> <p>・生徒の希望進路実現率を4年制大学、進学率95%以上、就職100%を維持〔87.1%、100%〕</p> <p>ア・国際交流研修について、再開に向けて、方向性を決定する。</p> <p>・本校教諭とのオンラインでの交流の機会を通して国際理解を図る。</p> <p>イ・30人以上の英検受験者を確保する。〔23人〕</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来や進路について考える機会」の肯定率は、94.5%であった。分野別説明会や社会人講師による出前授業等を開催し、引続き一人ひとりの自己実現に向け取組みを進める。(○)</p> <p>・生徒の希望進路実現率は、4年制大学89.4%、就職100%。引続き、一般入試受験者の取組を支援する。(○)</p> <p>ア・福井高校・吹田東高校と合同開催によりオーストラリア国際交流研修を実施した(生徒7名、引率教員1名)。外部事業者による「グローバル体験プログラム」(2回)実施し、日常会話(スピーキング/リスニング)や現地でのマナー等を学習した。(◎)</p> <p>・6/20には、南アフリカ共和国の学生達2グループと、互いの国の文化を紹介しあう等のWeb交流を実施。(のべ14名)(○)</p> <p>イ・英語検定受験者は24名であった。受験希望者による学習方法の問合せ対応は個々に実施したが、希望生徒対象の補講するまでは至っていない。〔△〕</p>

府立大冠高等学校

<p>3 主体性及び継続力の向上</p>	<p>(1) 部活動の活性化</p> <p>(2) 規範意識＝基本的生活習慣の醸成</p>	<p>ア・減少傾向にある加入率の回復に向け、1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させるとともに、部活動大阪モデルを活用し、ペア校との交流を図る。</p> <p>イ・部活動代表者会議で共通認識を図り、部活動の活性化策（退部率の減小案）を検討する。</p> <p>ア・イ クラブ員を中心に、生徒会と連携して、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。</p> <p>ウ・日々の清掃活動の徹底を図り、学習環境を整えるとともに、クラブ員・保健委員・美化委員、PTA と共にクリーンキャンペーンを年1回以上行う。</p> <p>エ・朝の生徒（クラブ員・生徒会・生活委員中心による）挨拶運動を年1回以上行う。</p>	<p>ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ70%以上、10%以下にする。〔60.6%、13.1%〕</p> <p>イ・部活動集会など部活動の活性化を校内で論議する機会を年7回程度設ける。〔7回〕</p> <p>ア・イ 生徒・保護者向け学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目のいずれも肯定率85%以上を達成する。〔84%・81%〕</p> <p>・年間遅刻合計回数 2000 回以下〔2417 回〕</p> <p>ウ・生徒・教職員向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」の肯定率の増加〔71%・56%〕</p> <p>エ・生徒による朝の挨拶週間を年1回以上行う。〔2日間〕</p>	<p>・当初（5月）の1年生のクラブ加入率は66%夏休み・2学期の活動を通じて、入退部が一定数あるが、12月段階の入部率66%を維持。他のクラブへの移籍等、当初より1年生の加入率は増加した。（○）</p> <p>・部活動代表者会議は、12回実施し、挨拶の励行、安全管理等、主体的な部活動運営について指導した。また、保健委員会による安全講習会（心肺蘇生法研修）を7月に実施し、夏季休業期間の活動時留意事項を確認した。（◎）</p> <p>ア・イ 生徒・保護者向け学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の肯定的回答は、それぞれ89.1%、73.4%であった。保護者に理解を得られるよう、課題や取組状況の発信に努める。（○）</p> <p>・年間の遅刻合計数は、2770回で、引き続き、生活規律の醸成に努める。（△）</p> <p>ウ・生徒・教職員向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」の肯定回答はそれぞれ73%、47.6%であった。定期考査ごとに丁寧清掃、行事ごとに大掃除を実施してきたが、日常的な美化意識の醸成に努める。（△）</p> <p>エ・生徒会役員による朝の挨拶運動を実施。5日間、のべ35名が参加（◎）</p>
<p>4 主体性及び継続力の向上</p>	<p>(1) 人権教育と教育相談機能のさらなる充実</p>	<p>ア・人権教育企画委員会を活性化し、時勢に即した年間計画を策定し、あらゆる教育活動のなかで、生徒の人権感覚を高めることができるよう取り組む。</p> <p>イ・カウンセリングマインドをもって生徒に接し、生徒－教職員相互の信頼関係強化を一層徹底する。教育相談委員会を効果的に活用し、課題のある生徒等の情報共有を図る。SCの相談室について、生徒や保護者に利用案内を周知徹底し、有効活用する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育充実度」の肯定率95%以上〔95%〕</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制充実度」の肯定率86%以上〔86%〕</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育充実度」の肯定回答は、95.7%。引き続き、授業やHR等、様々な場面で啓発に努める。（○）</p> <p>イ・隔週で生徒に関する情報交換（小委員会）を開催し、情報共有・対処策等の検討を行ってきた。また、定期考査ごとに教育相談委員会を開催し、個別の支援策を検討・対応してきた。生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制充実度」の肯定回答は86.9%で、安心の拠り所として認知されていることを確認した。（◎）</p>
<p>5 広報活動と地域連携の充実</p>	<p>(1) 広報活動と地域連携の充実</p>	<p>ア・地元高槻を中心に、さらに枚方方面の中学校を意識し、北河内の中心の学校として、学校説明会、クラブ見学会などにおいて、本校の取組みについて、広報と理解を図る。</p> <p>イ・HPの積極的な更新に努め、本校の教育活動を公開し、地域の信頼に繋げる。</p> <p>・コロナ禍ではあるが、授業、クラブ、生徒会等における地域との交流機会についてできることを模索し、本校への理解が深まるよう取り組む。</p>	<p>ア・学校説明会、クラブ見学会の参加者数の増加〔615名、238名〕</p> <p>イ・新たに作成するHPの内容充実と毎日の更新を継続〔ほぼ毎日〕</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の肯定率60%以上〔56%〕</p>	<p>ア・学校説明会・部活動体験の参加者は、予定した日程で、それぞれ554名、163名。年末12月、1月・2月に開催する等、直前まで広報に努めた。（○）</p> <p>イ・部活動の活動報告を、各学期1回配信。また、校長ブログ（129回）や、保護者限定ブログ等で授業の様子や部活動・委員会等、生徒の活動状況を発信した。</p> <p>・近隣保育施設の園児を招いた手作りコンサートや、保健委員による地域の保健活動（心肺蘇生法講習）や、吹奏楽部による施設への表敬演奏、生徒会執行部員による地域の祭りへのボランティアスタッフとしての参加等、地域貢献活動を行った。生徒向け学校教育自己診断における地域貢献に関する肯定回答率は、70.5%と、昨年度より生徒の達成感・意識が高まった。（◎）</p>

府立大冠高等学校

「働き方改革」に向けた取組み 6 教員の資質向上と	(1) 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取組み	ア・防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。 イ・授業アンケート結果を教科会議において分析し、改善策の検討等授業力向上を図る。 ウ・経験年数の少ない教員に対して管理職・首席・指導教諭中心に対話形式校内研修を継続して行う。 エ・全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用するとともに、校務運営の効率化を積極的に進め、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。	ア・年2回の避難訓練を実施し、緊急時の対応等を確認〔2回〕 イ・授業アンケートにおける評価の平均値3.3以上を維持〔3.4〕 ウ・校内研修の毎学期実施し、3回以上〔3回〕 エ・年間800時間以上の超過勤務を有する職員を5人以下にする〔9人〕	ア・年2回の避難訓練を計画・実施した。2回めは、水害被害を想定し、垂直方向への避難に加え、ICTを活用した教職員の安否確認を実施した。(○) イ・授業アンケートにおける評価(平均)は、3.43と高い評価を得ている。とりわけ、知識や技能が身についた感じている生徒割合が増加した点は、教職員の日々の授業改善の成果と捉えている。(◎) ウ・初任教員には、首席・指導教諭による毎週対話形式での校内研修を実施した。(○) エ・12月末時点で600時間以上の超過勤務を有する教員が、11名。部活動・行事等の付添分担を更に進め、引続き勤務時間管理健康と康管理に努める。(△)
------------------------------	----------------------------	--	---	---